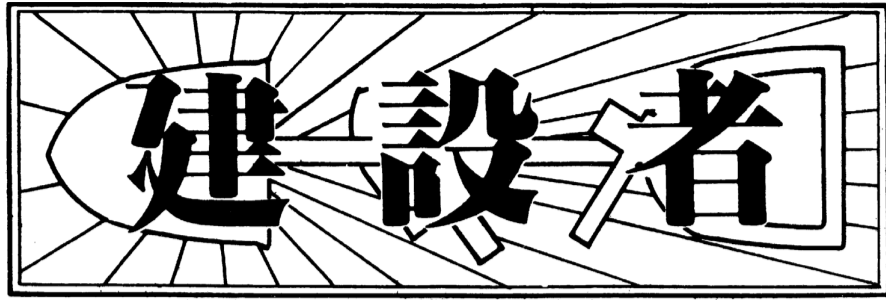


今月の葛飾組織現勢

2023年8月1日	4,202人
加入	21人
転入	1人
脱退	44人
転出	3人
2023年9月1日現在	4,177人



東京土建一般労働組合

葛飾支部

〒124-0012 葛飾区立石8-34-4
 電話 (5698) 1 2 6 1
 FAX (5698) 1 2 6 2
 発行人 関根伸正

秋の活動者会議&拡大出陣式に108人が参加

秋からの運動を加速させよう

8月27日(日)葛飾支部の活動者会議と秋の拡大出陣式をテイクプラザかつしかで参加者108人を集め開催しました。

第1部を活動者会議として、及川委員長から「秋は組織拡大の大きな取り組みだけでなく、10月からのインボイス制度や、来年4月から建設



及川委員長



14のグループにわかれてフリートーク

業にも全面適用される働き方改革への対応など、様々な取り組みの課題がある。みなさんに寄り添って取り組んでいきたい」とあいさつがありました。基調報告では、山屋書記長から今年度の葛飾支部の前半の活動報告と後半に向けた活動提案を進めました。

1つごとに取り上げる話題が違う中、様々な角度からの話題で盛り上がり、参加者同士が分會を超えて交流を深めました。

秋のスタート 持ち寄り46人

その後、本部の御崎専従主任中執を講師に招き、働き方改革についての学習会を開催し、今、そしてこれから私たちの建設業に何を備えていかなければいけないかの学習。原水禁世界大会に参加した女性の会の折笠和子さん、青年部柳澤豊さん、書記高橋司さんからの参加報告がありました。

第2部は秋の拡大出陣式を同会場で開催。土屋組織部長からのあいさつ提案で、秋の拡大目標149人、そのための行動提案でこの秋もジャンボハガキを作成したので積極的に活用してほしいとの訴えがありました。続けて乾杯。その後、各分會・青年部・女性の会・建長会が壇上に上がりスローガンを発表し、拡大達成に向けた決意を表明。その中で、12の分會が成果をもちより、46人の拡大成果から秋の月間がスタートしました。

フリートーク 分會を超え交流

午後に入り、中央労働金庫千住支店の浅古さんから、イデオやニーサなどの資産運用についてのお話。その後の参加者を14つのグループにわけたフリートークでは、グル

最後は、参加者全員で、秋の拡大目標達成に向け、ガンバロウ三唱を行いました。

対区要請行動

担い手確保のための取り組みを求める



田中淹夫さん

柴又分會 田中淹夫さん
 本支部分會の組合活動に尽力しました。85歳でした。昭和46年に東京土建葛飾支部に加入し、これまで地元の柴又分會をはじめ葛飾支部、東京土建本部まで活躍の幅を広げ組合活動にご尽力いただきました。心よりお悔やみ申し上げます。



対区要請行動

今年度の対区要請行動は、8月7日(月)午前、区役所で行いました。区からは、そ

それぞれの課から課長が5人出席(契約管財課・産業経済課・商工振興課・住環境整備課・すべやる課)。葛飾支部からの出席は、及川委員長をはじめ6人が出席しました。

要請項目は、①リフォーム助成、②耐震助成、③アスベスト対策、④公契約条例の実務型への移行、⑤建退共、⑥働き方改革・労働環境改善、⑦建設業の担い手確保・育成などの項目についての要望を出し、意見交換をしました。

特にこれからの建設産業において若い人材の確保をはじめ人材確保は重要な問題であること、そこに繋がる賃金引き上げが重要であること、夏場の現場の過酷な就労状況など、役員からの実体験や、組合員のみならず協力いただいた賃金アンケート結果などを踏まえての要請行動となりました。

また、8月31日からは区からの回答をもとに、葛飾区議会の4つの会派との意見交換を行いました。

寅さん

今年の夏は、ワールドカップの女子サッカーを皮切りに沖繩が会場で開催したバスケットボール、そして今月開催のラグビーなどで盛り上がっているのではないだろうか。ここ葛飾区では、高校野球で東京代表として共栄学園が初出場となった。惜しくも初戦敗退となってしまったが、明るいニュースをもたらしてくれた。

秋といえば、食欲、読書、スポーツの秋を連想する。以前は運動会といえば秋の開催が当たり前であったが、今では春の開催が多くなっているそうだ。とはいえ、9月ではまだまだ暑さは残るため、スポーツでも仕事でも熱中症には気をつけていきたい。

また、秋といえば、台風が多くなる季節でもある。防災活動、特に防災に対する備えを今一度確認していきたいところだ。100年前の1923年の9月1日に関東大震災が起こり甚大な被害をもたらした。そこから9月1日が防災の日とされている。毎年このように起こる自然災害から私たちは何を学び、何を備えてきたのか。しっかりと検証しながら、災害を風化させずに今に活かしていきたい。

そして組合で秋といえば、秋の仲間増やしの月間でもある。今年もこの秋の月間で149人の仲間を増やす目標を取り組み、減少し続けてきた組織人員の実増をめざしていくことになる。仲間を増やし、処遇改善運動につなげていこう。

秋の拡大月間スタート たつみ全ステイジで達成目指す

8月までの夏日常の仲間増やし(拡大)の月間は、目標108人に対して、78人の加入で達成とはなりませんでしたが、各分会、拡大数が伸び悩む中、目標を超過達成した分会がたつみと細田高砂の2分会でした。新金町分会が目標7人に對して6人、北水元分会が目標5人に對して4人の加入で目標達成にあと1人といい結果でした。

年間拡大の目標に對しての到達率は、分会組織人員が一番多いたつみ分会が77・4%でトップです。同じく70%の到達率の分会が細田高砂と北水元の2分会となっています。たつみ分会はこれまでの春一番、春、夏日常の3ステイジのすべてを達成しています。1月1日比の9月1日付人員では、実増分会が、2分会で亀有の3人とたつみの2人となっています。全体では44人の減少です。年間実増を自指すうえでも、組織減少をストップさせ、秋の月間で組織実増をめざすことになり

9月からは、秋の仲間増やし(拡大)の月間を10月まで集中的に取り組んでいきます。支部目標は149人。支部・分会役員だけでなく、多くの組合員の参加しながらの行動でなければ、この目標数は達成困難です。みなさんの協力をお願いいたします。一人でも多くの仲間を組合に迎え入れるために、周りに労災保険など、現場に入るためにどうすれば良いのかなど

	2023年 1月1日付	2023年 9月1日付	1月比 増減	夏の日常拡大		秋の拡大																
				目標数	結果	目標数	成果表															
							9月1日現在															
				目標数	結果	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
たつみ	478	480	2	12	14	17	●	●	●	●												
奥戸	384	383	-1	10	6	14	●	●	●													
本田立石	324	318	-6	8	4	11	●	●	●													
青戸	147	143	-4	4	2	5	●	●	●													
中央	382	372	-10	10	4	13	●	●	●													
堀切	262	250	-12	7	4	9	●	●	●													
亀有	383	386	3	10	8	13	●															
細田高砂	377	375	-2	9	17	13	●	●	●	●												
柴又	176	174	-2	5		6	●	●	●													
新金町	299	292	-7	7	6	11	●	●	●													
北水元	182	182	0	5	4	6	●	●	●													
幸田	271	271	0	7	3	10	●	●	●	●	●											
水元	377	373	-4	10	5	13	●	●	●	●	●											
その他	179	178	-1	4	1	8	●	●	●													
合計	4221	4177	-44	108	78	149	9月49人 10月 人 合計=49人															

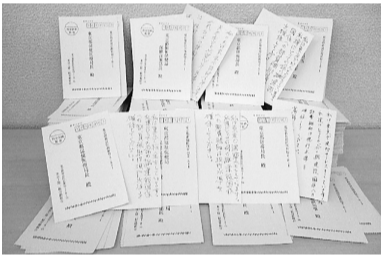
1月1日付人員比 マイナス 44人

目標149人

の未加入の方からの相談があった場合は、東京土建をお勧めしましょう。
組合員数が増えることは組織の力にもつながります。その力は、国保補助金獲得に對する大きな力にもつながります。多くの仲間を迎え入れて、私たち建設業界の処遇改善に向けた組合要求運動の力にしていきましょう。
【秋の統一行動日】
第1次：9月8日
第2次：9月14日
第3次：9月21日
第4次：9月27・28日
第5次：10月3日
第6次：10月11・12日
第7次：10月18・19日
第8次：10月25・26日

対都ハガキ要請行動 多くの組合員の力で進めよう

現在、来年度の土建国保への補助金確保のための組合員・家族のみなさんができる運動としてハガキ要請行動に取組んでいます。9月までは東京都宛のハガキ要請行動です。
来年度の建設国保補助金



集まった対都要請ハガキ

獲得の運動は私たちの建設国保を守るうえでも必要な取り組みとなります。医療保険一元化阻止と建設国保育成・強化の運動として、建設国保補助金現行水準確保の取り組みハガキ要請行動を多くの組合員の力で進めていく必要がありますので、ご協力お願いいたします。
ハガキシート組織人員分を目標に取組みを進めます。
・東京都宛ハガキ要請
8〜9月の取り組み
・財務省宛ハガキ要請
10〜11月の取り組み

秋の拡大出陣式 決意表明

たつみ分会



堀切分会



中央分会



青戸分会



本田立石分会



奥戸分会



北水元分会



新金町分会



柴又分会



細田高砂分会



亀有分会



建長会



女性の会



青年部



水元分会



幸田分会

4年ぶりの原水禁世界大会(長崎)に参加して

戦争も核兵器もない世界の実現を

女性の会 折笠和子さん



折笠和子さん

【女性の会 折笠和子】コロナ禍により支部として4年ぶりの大会参加となり、私は初めて長崎大会に参加させて

いただきました。台風6号の接近にあまり参加が危ぶまれましたが、支部には「行く」という判断をしてもらい、また、葛飾原水協参加予定者15人全員が揃って出発できたことは良かったです。そんな悪天候予報の中、長崎市役所の目の前にある長崎市民会館・体育館での開会には、たくさんの方の参加者であふ

りました。本当にそうです。広島・長崎での原爆の悲惨な状況、被爆者の苦しみ。命を奪い、豊かな土地、自然を壊す、たった一発の爆弾で。こんな事が二度とあってはなりません。長崎原爆資料館を見てきましたが、折れ曲がった鉄や影が付いた扉、焼けただれた人の写真は見るに堪えない凄惨な姿でした。2日目は台風で予定変更。1日の分科会を午前のみとし、翌日予定の閉会式を午後

最後は、福島原発事故処理水の海洋放出反対の呼びかけでした。事故処理水(A-LP S処理水)の海洋放出は漁業関係者からは強い不安と反対の声があり、地元民、国民との合意がない中で海洋放出強行は許されません。緊急署名と宣伝行動の訴えがありました。

午後の閉会では中満泉国連軍縮代表、そして昨年誕生した岸本聡子杉並区長よりビデオメッセージで連帯の挨拶。長崎で被爆された田中照巳さん91歳が登壇し、核兵器と人類は共存できない、禁止条約を廃止まで持つていかないと核兵器はなくならないと訴えました。高校生平和ゼミナールや若い世代の連帯発言もあり、つないでくれた人、引き継ぎつなげ、核廃絶というゴールまで持っていきたいという決意で締められました。大会の思いを共有して帰りました。参加させて頂きありがとうございました。

【青年部 柳澤豊】2023年8月7〜9日で長崎県で開催した原水禁大会に参加させて頂きました。僕はこの参加が初めてです。台風の影響で参加できるか不安でしたが、天候にも恵まれて短縮でしたが、参加できました。平和公園にて葛飾区が植えた木を見た後、爆心地に行き、当時の地層や爆発に耐えた教会も見ました。その後資料館に行き、その当時悲惨な状況を目の当たりにしました。実際に落とされた爆弾の模型や溶けた瓶、爆発の瞬間に影が付いた木など様々な衝撃的な物を見て、原爆の酷さを知りました。今回の原水禁で78年前の長崎、そして広島が最後の爆心地にし、絶対に戦争をしてはいけない。と思いました。大変貴重な機会をありがとうございました。

【青年部担当書記 高橋司】2023年8月7日から9日の3日間、本年度は長崎の原水禁大会へ参加してきました。ちょうど、台風6号が九州に直撃する予報で、今回の参加は見送られるところでしたが、葛飾原水協の代表として、一緒に参加を決断しました。大会自体も台風の影響により予定を変更しながら、開催を進めていきました。初日は長崎平和公園周辺と



会場に集まった多くの参加者

講演は「国民負担で原発救済? GX関連法の意味するもの」GX(グリーン)トランスフォーメーションと原発推進、問題だらけのGX関連法案が国会で成立、利益を得るのはだれか?という事で内容説明がされました。詳しく理解できませんでしたが、20兆円もの国債を発行し、水素やアンモニア、原発など経済産業省が「脱炭素」とする分野に巨額資金を流し込む内容。それと五つの法案を束ねた電源法、原子力の活用を「国の責務」とし、本来原子力事業者の責任でやるべきことを国が肩代わりし、事業者を厚く保護する内容。運転期間の延長も原子力を利用する立場の経済産業省が認可、原則40年から60年超えも可能になる。危険なリスクや高コストは次世代も含めた国民が負うこととなります。

平和記念公園には、当時の建物の基礎がいまもまだ残っていました。現在では周辺に草木は生えていますが、基礎をよくよく見ると異質なもののよう感じました。また、当時の地層も残っており、お茶碗などの生活に使われていたであろうものが、がれきと共にそのまま残っていました。当時、そこにも生活がありました。それが一瞬の光と共に無くなったことを想像すると、とても悲観な気持ちになりました。

原水爆資料館は当時の映像や物が残されていました。映像では原爆投下直後や焼けた人や町が流れていました。また、展示品に熱で曲がった鉄骨や瓶のボトルが原爆の威力と共に悲惨さを物語っていました。資料館は当時のことを経験しているわけではない私ですが、まるで当時の現地に居るような空間で、息が詰まるような胸が苦しくなる感覚でした。

この感じた思いは、私自身も絶対に二度と味わうことがあってはならない。と思います。今回、長崎大会に参加し体験したことを後世にも継承し、二度と戦争のない平和な世界であることを心から願います。

絶対に戦争をしてはいけない

青年部 柳澤 豊さん



柳澤豊さん

【青年部 柳澤豊】2023年8月7〜9日で長崎県で開催した原水禁大会に参加させて頂きました。僕はこの参加が初めてです。台風の影響で参加できるか不安でしたが、天候にも恵まれて短縮でしたが、参加できました。平和公園にて葛飾区が植えた木を見た後、爆心地に行き、当時の地層や爆発に耐えた教会も見ました。その後資料館に行き、その当時悲惨な状況を目の当たりにしました。実際に落とされた爆弾の模型や溶けた瓶、爆発の瞬間に影が付いた木など様々な衝撃的な物を見て、原爆の酷さを知りました。今回の原水禁で78年前の長崎、そして広島が最後の爆心地にし、絶対に戦争をしてはいけない。と思いました。大変貴重な機会をありがとうございました。

熱中症に注意!

9月もこまめな休憩を





横山農園で枝豆収穫体験に38人が参加

青年部・後継者合同レク 家族ぐるみで枝豆収穫

【後継者対策担当書記 日暮】7月30日、青年部後継者合同開催「枝豆収穫体験」を開催しました。参加者は青年部後継者で合計38名でした。当日は足立区入谷にある横山農園さんで現地集合して約1時間の収穫体験を開催、まずは農家さんからの注意事項の説明後、大きな枝豆をお親子連れでサクサク収穫。

各ご家庭のお子様の枝豆収穫直後の「とったぞー」の一言があちらこちらで聞こえ、暑さを吹き飛ばす勢いで皆大盛り上がり。

また枝豆収穫と同時にビニールハウスで新鮮なトマトをほおほりながらお土産袋にトマトを確保。たくさん収穫したとトマトのお土産を片手に支部へ戻って来てから楽しい交流会。

収穫した枝豆やトマトに加えてナスやトウモロコシなどを追加して調理して冷たいビールを片手に楽しく交流。おいしい野菜とビールで食事も会話も進んで皆楽しく交流できました。

参加者はみんな笑顔で、楽しかったと言ってくれました。次回行うレクレーションも、楽しい企画になるよう、部員みんなで話合っています。

NAMAZU & 女性の会 外郭放水路見学で防災を知る



首都圏外郭放水路

【書記次長 深谷隆行】女性会員から持ち込み企画で行われた首都圏外郭放水路見学は、まちの救助隊と葛飾支部女性の会で合同開催し、7月23日(日)に30名が参加しました。

書時の地元協力と仕事確保、入札時の際の加圧など参加することの長所もあります。未加入で興味のある方は支部までお問い合わせを。

埼玉県春日部市にあるここは近隣中小河川が洪水になった際に洪水の一部を利根川へ流し、被害を軽減する目的の治水施設。見学コースはコンシエルジュによる調圧水槽の概要説明付でした。但し、エレベーターやエスカレーターの設定がないので、自力で歩行できる方が参加条件です。また一部暗く感じる場所もあり滑りやすく注意が必要などです。テレビや映画、書籍の取材で多数利用されていますので、見たことのある方も多いと思います。

まちの救助隊NAMAZUは、葛飾区と災害時における応急対応業務に関する協定を交わしているチームです。災



村越分会長(たつみ)のあいさつ

第1ブロック会議 4年ぶりの開催で交流と情報交換

【たつみ分会教宣部 村越 義二】7月22日(土) 木曽路

新小岩にて第1ブロックの会議を行いました。コロナ禍も

あって4年ぶりの開催になります。最初にブロック長たつみ分会村越分会長から挨拶、続いて分会レクの実行状況

報告を小泉奥戸分会長、佐藤本田立石分会長、岩佐青戸副分会長の報告後、阿久津副委員長の乾杯で飲み放題のコースをスタートさせてからはお酒や料理を楽しみつつ自由に様々な分会の情報交換が出来ました。最後に井岡副委員長「閉会の挨拶と「団結ガンパロー」の掛け声で終了しました。

たつみ10名、奥戸9名、本田立石10名、青戸6名、書記4名、計39名の参加でした。



テクノプラザで集団健診

支部集団健診

特定保健指導に15人面談

【社会保障対策担当書記 小野】2023年8月20日にテクノプラザかつしかで支部集団健診を実施しました。受診者は189名で、特定保健指導の面談者は15名でした。新型コロナウイルスの感染症の位置づけが5類に引き下げられてから初めてのテクノプラザかつしかでの集団健診となりました。それに伴い検温は会場では実施せず、各人で行ってもらうこととしました。当日の混雑を避けるために時間制は今後も継続します。

特定保健指導において、葛飾支部は2022年度特定保健指導利用者数が47人(利用率10・2%)と全体で2位を達成しました。特定保健指導の対象となった方は国保組合より案内が送付されます。保健師と面談をし、一定期間電話やメール等で、生活習慣の改善を目指します。特定保健指導対象者が初回面談を受けた方にクオカード3000円を国保組合からお渡ししています。WebやLineでも利用することが出来ますので、この機会に是非活用して下さい。また、東京土建国保組合に加入する40歳以上の組合員と家族が受診券を使わずに、勤め先等で健診を受けた場合でも、健診結果を受診率に反映させるための取り組みを行っています。特定健診の必須項目を受診し、結果票と受診券を提出された方に国保組合からクオカード1000円を進呈しています。是非、健診結果の提示、受診率向上にご協力をお願いします。次回は11月26日にテクノプラザかつしかで行います。

公式LINE登録しよう
南葛SCチケット情報も配信中



日時	場所
10月22日	下千葉診療所 同日、長寿(後期高齢者)医療健康診査も行います。詳しくは支部迄
11月26日	テクノプラザかつしか